象画便覧 下

261

麁畫便覧下巻目錄

正甫　うほう
直菴　たゝ
宗達　菊　あざみ
友禪　あんとんノ　秋の野　ともゆすゝき　そなまき雲
光琳　さゝ梅ノ梅　あしさし　なんてん千鳥
鳥羽繪　狂人形
立甫　大黒　二哥人
以上

754
.S61
6970

鶉

直庵と云へるは佐氏と志してまた又は
曽我の直菴と号し蛇足が孫兄弟師
なりとも云 手書手と画くところは水墨
の流にして又人物ともにきはめて妙なる
天性齊くとよしとくるにおいてくくりし
かうこそや下の毛もしともと
すこしおかくしとめと

草花

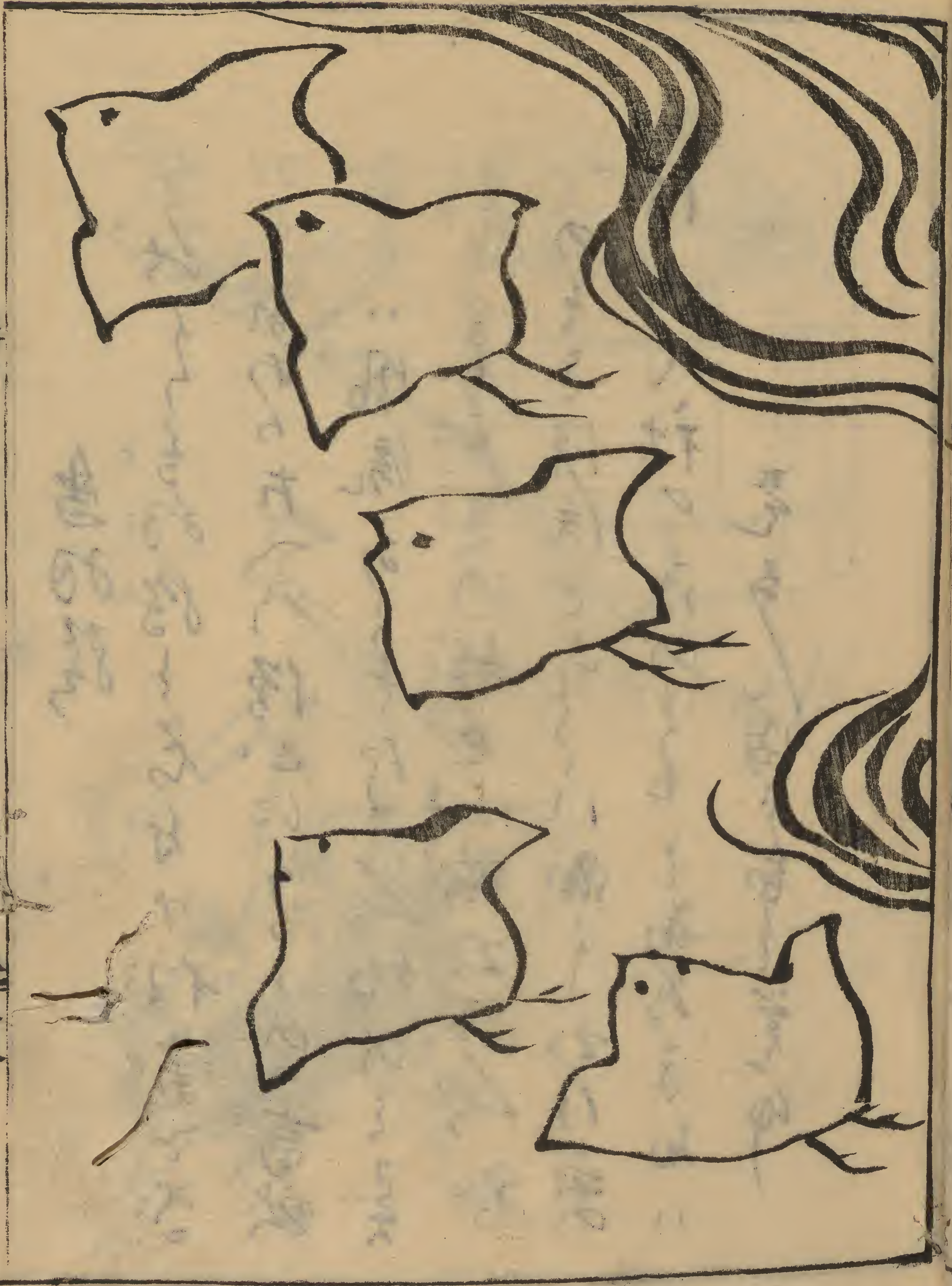
宗達ハ俵屋といへハ京の絵師なりしか
山楽が門弟に随ふ弟子でありしと人物
花鳥に長じ余ハまろ気に汲ぐ春秋の草
草の様おもむくに今ひ愛ではしくけふたら
ときハわれ一風をおこし
世俗となりこと
志のぶ

衣服の模様

友禅ハ宮崎氏にて草花衣服に自画を紙
の絵成すに鄙び遠慮なき友禅といふ
いひなしたるを布上て流行の絵具
を施して河に流しあらひにてをとしこと
を見たる筏のあらひなかし
書話しのかしにて言と
はきこえ

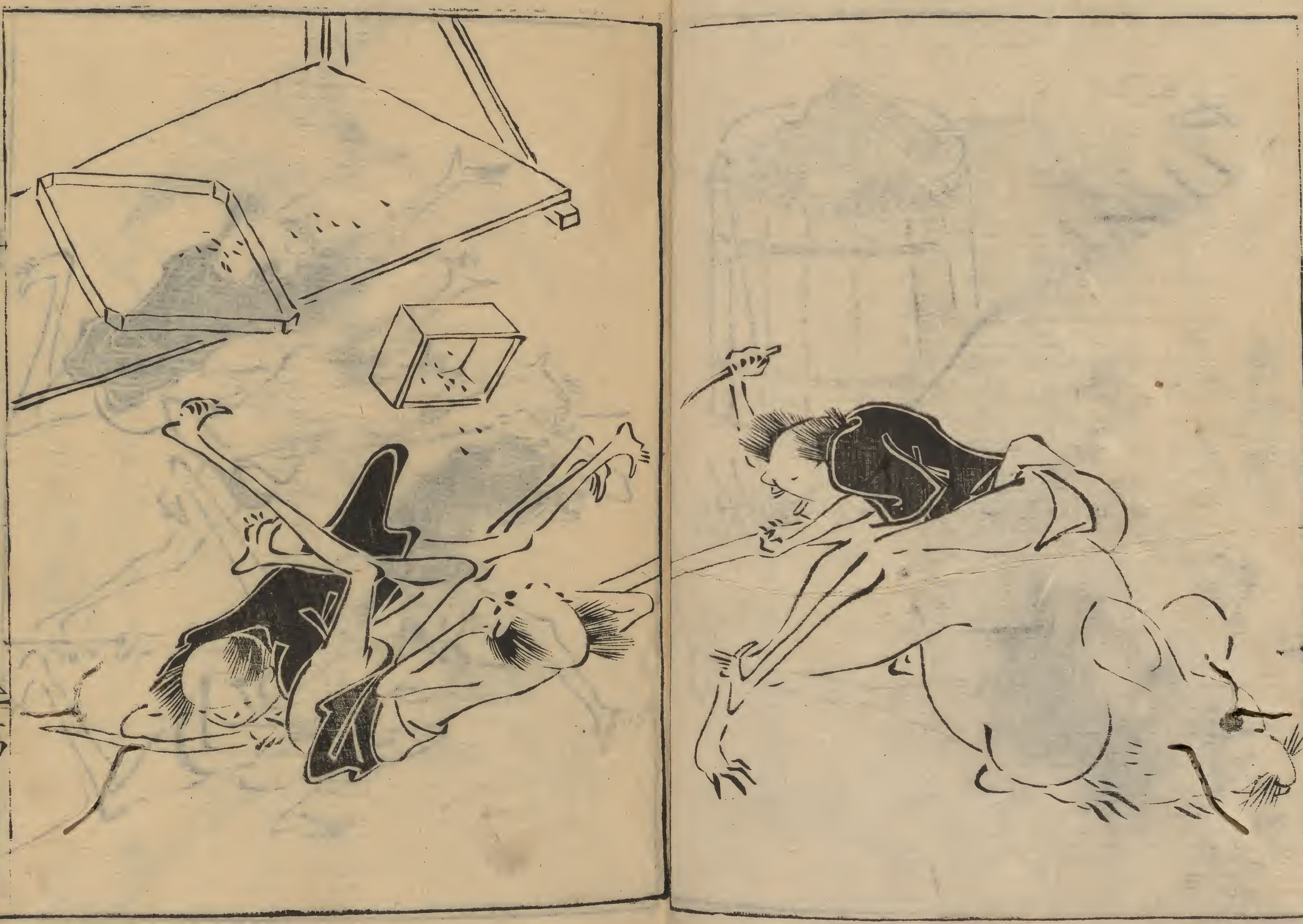
草紙

過し世中光琳とて珍画軽筆を
当代にもてはやし老若ともに好めば
草の汁と画くなとあらずましとの紙に墜
ともえもかのゆかし草は極めかたし
には其頃名筆ありしとぞ此下
其の趣しかばかり



鳥羽絵

今此より鳥羽絵と名付け狂戯とす
みな是れ古への僧正によることなり畜獣
禽鳥は風流をつくしたる人物の容態
形ありしも魚足の絵も大眼大口に似せ
とのさき風流とならしに從ひ今月夜の
移りて秋の夜のともとなりき物は
是なん滑稽とも笑ふ也



節句の懸画

立圃世に遊画書画と号しとや
かにしたる頗役者画ていふことに一句ニ
とく、新玄のよけいに料書をとつて
事しひをするが維が筆路紙墓
とも見ひとを
消閑し志すなし
号録小のふ

節くのまねも
折々の小鎚うる

立圃書

いかなる此事の内とい
えをいそくまれ
内もなふ
まことうし
は佛くてゆく
和宮にしまれ
め意をなしく成
あのひおく

川とはひとまちや
うつし雲丹

立圃書

世はゝし也花みやことゞめや
とてかくしは

跋

孔子曰知之者不如好之者好
之者不如樂之者於伎藝亦
爾矣粤髙平旾卜子自髫亂
躭畫術入狩埜氏之門屢趨
于庭審問篤信乾乾不倦也
其為人也宏才敏捷而拔群
出黨也研精探微頗雖得其

畫工　法眼春卜纂

寶暦十一辛巳孟冬再校

書林
江府日本橋南壹町目　須原茂兵衛
浪華心齋橋安堂寺町　大野木市兵衛